

# さ ざ ん か

第 118 号、2011 年 8 月

今年はお盆あたりから雨が多く、昨年ほどの猛暑という印象がない夏だったですね。台風も大したことなかったし、みんな、自然災害には妙に過敏になっているような気がするだけに、昨夏は熱中症で 2000 人弱が亡くなったことと比較しても、そこそこおだやかな夏で良かったと思います。

さて、大震災から 5 か月以上たちました。直接被害をこうむらず、遠くの地で暮らす我々は、多忙な時や身の廻りのもめごとなどがあると、ややもすると大震災があったことすら忘れる時間があります。まあ、人間、そんなものかも知れません。でも、当事者のばあい、死んだ子供や親や兄弟は相変わらず死んだままだし、失った家や財産は相変わらず失ったままであるし、農業や畜産や漁もまだまともに出来ないままであるし、原発周辺ではこれから何十年も我が家、生まれ育った土地に帰れないことが明らかになってきたし、忘れようにも、忘れたくても、一瞬たりとも忘れさせてもらえないと言う現実があります。

地震や津波による破壊は一瞬でしたが、生活する人にとっては彼らの生活は今もなお、毎日毎日破壊され続けているようなものではないでしょうか。失業してしまって日々の生活にすら困っている人が、今はカタチすらない自動車やマイホームのローンを払わなければならない。現代版残酷物語ですね。ギャンブルとか投資とか保証人倒れとか、当事者が負うべき事情があれば、それはまた止む無し、と思うのですが、震災の被災者には責任はなく、ただただ運の悪さのみがあるのみです。

個人的には非常に同情し共感しますが、現実には、具体的にせいぜい義援金に寄付するくらいで、彼らからみるとほとんど役立っていないのが現状です。義援金と云ってももちろん我々自身の生活に影響を及ぼさない範囲です。それが普通なのです。

こういう時にこそ、我々の代弁者として、あるいは代行者として存在し、彼らを救ってくれるのが政治家なのでしょうけど、残念ながら、今の政治家にはそんな雰囲気の人はいませんねえ。

日本人にとって政治家のトップである総理大臣にふさわしい人間がいない、という不幸はしかし、2 万人以上が亡くなった大震災の不幸と比べた時、どうでも良いつまらない出来事なのかもしれません。

---

---

## 病院からのお知らせ

---

---

- \* 5月から電子カルテシステムが稼働しております。当初は、特に外来受付の時に、ご面倒をおかけしたようです。その電子カルテでは患者さんのデータを経時的グラフで表すこともとても簡単にできます。たとえば、この1年間のコレステロールの変化を見たい、などという時は主治医にご相談ください。その場でグラフ提示ができると思います。
- \* 7月から新任の医師が赴任いたしました。  
外科：川井田 浩一  
小児科：藤山 りか の両先生です。  
よろしくお願ひ致します。
- \* 肺炎ワクチンの予防接種を行っております。ご希望の方は各科外来に申し出てください。予約制になっております。
- \* 亜急性期病床は20床分準備してあります。リハビリテーション中心で少し入院期間が長くなりそうな方向けの病室です。ぜひご利用ください。  
なお、ご参考までに、当院の一般の方の平均在院日数は20日前後です。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。  
骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみたいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。  
骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることがあるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。  
無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします  
近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- \* 肝臓病、糖尿病、脳神経外科、難病などの特殊外来は診察日が決まっておりますので、診察希望の方はあらかじめご確認ください。

朝涼し 一日の幸を 思ひけり

行けずとも 花火の音の けたたまし

大試練 乗り越へて行く 酷暑かな

---

---

短歌

瀬戸 よし子

見えづらくなりし鉛筆のHBを2Bに替えて少し落ちつく

仏壇に手を合わせいる わが耳に朝一番の殺人のニュース

---

---

楽しみ乍らの生き方

別府政隆

早いもので私も老人会員の一人となり、自分ながら驚いています。いつの間に年取ったのかな。子供達の成長を想う時、自分の年齢をもすっかり忘れていたのです。会員になり初年度が執行部の一人を任された。翌年度は会長職を仰せつかり、現在まで勤めて来た。

会員全員の期待には答えられないが、私も自分なりに前向きに努力し取り組んでいます。何をやるにも結果的に良かった、面白かったと言える活動に取り組んでいる。グランドゴルフも、初めて先輩たちに混じって、市老連の大会試合に参加した私でした。とまどい乍らも、他人の行動を見ながら先輩たちのアドバイスを受け乍らの一日でした。結果はまずまずだった。何はともあれ、参加することに意義があるのだから、そして参加した事で、ゴルフの仲間が一人増えました。大事に付きあって行こうと思っています。試合の回数を重ねる度に、話はずみ、面白味もあり楽しみも一段と増してきました。これまでと違い、上達したのが自分なりにハッキリ分かる程です。最近では仲間も増え、ストレス解消にも最適です。仲間と逢う事の楽しみ、待ち遠しいです。誰にも気兼ねのないスポーツ、無理のない運動で、ボケ防止にもなるんじゃないかと思えます。試合に参加で出来、何より健康的で気分が良い。これからは、皆で楽しく生きたいものです。人に迷惑をかける事もなく、一人勝負のゲーム、スポーツだから友をさそって楽しもう。健康のため、頑張ろう。

---

---

介護への道 パート I

カラーマン (とその女)

こんな私にも両親が居て、その両親は現代日本の例に漏れず老夫婦 2 人暮らしである。現代ニッポン国では、高度経済成長時代に都会にでた若者たちは、ついに田舎には帰ることはなかったのである。青雲の志で働きに出た都会で、家庭を築き、家を建て、やがてそこで、子供が生まれ育ち、それぞれが独り立ちしていく。

(せめて、お正月とお盆に田舎に帰ることで、故郷を忘れないようにしているのかしら。

今やこの時期の民族大移動は年中行事だものね)

子供たちが独立し、夫婦 2 人残っても、夫婦が帰るべき故郷には魅力あるものは残っていない。年老いた老親とその介護のみが待っている。

(故郷に錦を飾るとか、そういう牧歌的な時代はもう戻ってこないでしょうね。孫たちにとっては育った都会が彼らの故郷になってしまっているしね)

都会でそこそこ出世して定年を迎えたあとは、故郷でのんびりと余生を過ごしたい。が、体力、気力的にまだまだ仕事が出来るとしても、田舎には職がない。営業の達人でも、営業をする場そのものが田舎にはない。

(大会社の部長さんでも、定年で会社辞めればただのオッサンだものね。その点が定年がない職人さん達との違いだわね。どちらが良い悪いではないでしょうけどね。どちらも成長日本を支えた人たちだし、ホワイトカラーもブルーカラーも一生懸命だったのだけわ。)

友人もいない。映画館も美術館もない。野球場もサッカー場もない。あるのはコンビニとパチンコくらいか。これなら今しばらくは都会で夫婦 2 人暮らしを楽しんだ方が良さそう。しかも今の時代、嫁さんが姑の介護をするために全く知らない夫の田舎に行くということは、ほとんどあり得ないことである。

(大体の団塊の世代は、定年退職後、自らを楽しんでいる人が多そうね。旅行に行ったり、趣味に走ったり。豊かなニッポンを作り上げ、そして壊した人たちは、それなりにうらやましい世代ではあるわねえ。)

そんなこんなで、結局、老人 2 人暮らしか、あるいは独居老人、というのが最近の大多数の地方の老人の生活環境なのである。

さて、そういう状況で 20 年以上、我が家も両親の 2 人暮らしであった。最近、父がボケてきていた。しかし、大正生まれという年齢を考慮するとこんなもんだらう、と思っていた。その父が 2 年前に間質性肺炎を患い入院した。幸い何とか肺炎は治癒したが、このころからボケが目立ってきた。といっても静かなボケ、というかおおらかなボケでありむしろ微笑ましい感じであった。怒ったりいらいらすることもなく、どこか大人風というか仏様風でもあった。年金などの管理もしっかりできていた。(と思う。実はほとんど親の懐具合は知らないのだ。床下耐震工事とかリフォームのおっさんとか、植木屋さんに多額の費用を払っていた領収書を発見したのは今回のボケ騒動の時である。)

(それにしてもお年寄りに付け込んで、リフォームとか健康器具とか健康食品を騙すように売りつける悪徳商法は頭にくるわねえ。どうも、いつの世もずるい奴、卑怯な人間てい

るものなのね。)

一方で、この2年前の父の入院の頃から母の行動がどことなくおかしくなってきた。頑なさが目立ってきたのである。父が入院した病院は車で1時間以上かかる田舎にある病院であった。交通の便が悪いし、母が行くときは私が車で連れて行く、というのだが頑なに子供に迷惑はかけない、などといって路線バスを乗り継いで何時間もかけて行ったりした。まあ、これは性格か、と思っていた。一人でバスに乗れるのだからボケでもあるまいと。(多分このころから認知症は忍び寄っていたのね。ボケは必ずしも前からなくて、そっと後ろからついてきていた、て感じかしら)

肺炎の父が退院してまた老夫婦の2人暮らしが始まり、私はこれまで同様、時々、実家である彼らの家に泊まった。ここ1年位前から母が同じことを何度も言うことに気が付いた。最初は、まあ年寄りはこのものだろうと思っていたが、どうも度が過ぎる。2度3度ならまだかわいい。下手したら5度6度である。いや10回くらいの事も……。もちろん本人は同じことを言っているという自覚は全くない。

一方でゆっくりボケる父。父に遅れまいとするかのように急いでボケる母。やれやれ、これじゃ、そのうち介護する方の身の自分としては、相当な覚悟が必要だなあ、とその当時は特に深刻になることもなく漠然と予感していた。

(本当にそうなの？ ダブルボケって大変そう。あなたまで入れたらトリプルボケってことになるわねえ)

昨年、父のかかりつけのドクターから胸部レントゲンを撮ってみたところどうも異常な陰影があり肺癌らしいと教えられた。治療はどうしますかと問われた。年齢、ボケ具合などを考えて、何も治療をしない、という治療法を選択した。少なくとも手術とか抗がん剤投与は全く考えなかった。

(ボケに肺癌なのかあ、いろいろあるわねえ、長生きすると……。でも、ボケ単独より、肺癌があった方が、勝負が早くていいとも考えられるわねえ。冷たいようだけど)

いわゆる天寿癌であろうと考えることにした。父に癌かもしれないけどどうする？と一応尋ねてみたが、もう何もしなくて良いと答えた。もちろんボケている父が、すべて理解した上での回答でないことはあきらかではあるが、それでも父の意思ではあるだろう。この肺癌が発覚した時点でたぶん夏ころ(発覚は初春だったか？もう忘れてしまった)までは、命が持たないのではないかと想像していた。毎年、お盆には都会から帰省する弟の家族にも今年が最後の夏のつもりで帰ってくるように伝えた。

だが。年寄り強い。昨夏はボケながら、よちよち歩きながら、熱中症に倒れることもなく無事に過ごした。秋になっても、年末年始を過ごしても、少しずつ確実にボケながらも体調は変わらずに過ごしているように見えた。しかし、今年になってからさすがに体力が落ちて来たのか、失禁が多くなってきた。海軍兵学校卒のプライドが、おむつ使用をいやがるだろうと思っていたら、意外と素直におむつ使用（当初は外出時のみ使用する、いわゆるリハビリパンツ）を受け入れた。まあ、プライドを凌駕するボケの効用かと思ったりもした。

そのうち小便だけでなく、大便も失禁するようになった。2人暮らしの老夫婦だから、この後始末はボケを急いでいる母しかする人間が居ない。当初はそれなりに、妻としての使命感（というか義務感というか、惰性感か）で何とかおむつ交換をしていたが、小さな母が中肉中背の父のおむつを替えるのは相当な負担である。

ついに母が一人で見るのに体力的に、そして知力的に限界が来た。と、いうよりも、本当はとっくに限界が来ていたのだろうが、事実を見ようしない私たちの目にはちゃんと事実がみえなかったのだ、と今にしては思う。とっくに限界の時は過ぎていたのだろう。

今振りかえると、最初の父の入院から2年。ホントはこのころから、子供としては事実を見極め、もう少し、老親たちに関与していればと思わないこともないが、そうさせなかったのもまた彼らなりの子供に対する愛情（子供に迷惑をかけたくないという気持ち）だったうのだと、勝手に思ったりしている。

こういう状況下、いよいよ本格的なカラーマンの介護生活が始まりつつあった。親孝行したい時に親はなし。（まあ、間に合ったわね）いつまでもあると思うな、親と金（まあ、良かったわね。カネのかわりにボケがあって）

（もうこんな生活、いや！ じゃあ、どんな生活が良いの？---通販生活！ てコマーシャルが昔あったわね。あなたの場合、通販生活ならぬ介護生活ってわけね。）

パート1 終わり。パートIIに続く。

---

---

## 編集後記

---

---

欧州での移民がらみの暴動が気になります。貧富の差さえなければ、起こらなかった問題だとはいえ、あえて他民族を母国に受け入れる必要はないのじゃないかと思えます。欧州は植民地政策の代償として移民を受け入れています。が、せつかくの島国ニッポン。イラン人、インドネシア人、朝鮮人、中国人、アフリカ人など多人種で賑わう国家は大和心に包まれる日本国にはふさわしくないし、似合いもしない。日本列島は日本人のものであり続けてほしいと願うものです。(KT)